

発言No. 13

受付No. 5

平成 26 年 8 月 25 日
15 時 23 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 16 番 氏名 田畑 敬二

答弁を求める者 (○をつける) 市長 教育委員会委員長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 防災について

①台風11号は全国の各地域に大被害をもたらした。三重県では、大雨特別警報を発令し、30%を以上の県民(50万人以上)に、避難勧告、避難指示を発令した。また、8月19日深夜から20日にかけて、広島市を中心に豪雨となり、安佐南区、安佐北区の広範囲で土砂崩れや土石流が発生、多数の住宅がのみ込まれた。8月24日現在で、死亡は49人、不明者41人になった報道された。浜田地域には、台風11号の影響や、前線による大雨は無かったものの、仮に、浜田市に、気象庁・島根県から大雨特別警報が発令された場合の対応を伺う。

② 島根県は県下の土砂災害危険箇所を公表している。県下の総計は22,304ヶ所である。浜田市内には、土石流危険箇所が824箇所、地すべりの危険箇所30箇所、急傾斜地崩壊危険箇所1,718箇所であり、合計2,572箇所である。この現状をどのように認識されているか伺う。

③ 土砂災害危険箇所をどのような手法で市民に周知しているのか伺う。

2 消防団員について

①8月3日(日)島根県消防操法大会が松江市東出雲町で開催された。浜田市消防団からは、小型ポンプ部で、浜田消防隊上府分団、ポンプ車の部で三隅消防隊が出場した。結果は、上府分団が小型ポンプの部で、優賞、三隅消防隊は、ポンプ車の部で4位に入賞した。この結果をどのように認識されているか伺う。

- ② この操法大会に参加が決定した三隅消防隊は、4月11日に操法大会に選手として選出された団員、自治区長、団幹部をはじめ多くの団員とともに、訓練開始式を行い、大会前日までの、選手、団幹部、訓練応援団員の合計出動団員は、延べ923人であった。しかし、操法大会に対する出動手当は、最大で、訓練回数36回であり、1回当りの出動手当対象団員は、11名である。差し引き、延べ527名の団員に対して出動手当が支給されていない。この実態について伺う。
- ③ 消防団事務の一元化について、各支所20人体制が実施される中で、消防団事務の一元化が検討され、消防本部が事務を持つと聞いたが、各支所の防災担当者が不在になるということは、地域に根ざした各消防隊（特に水防災害活動）において、顔の見える繋がりが欠かせないものとする。事務の一元化に関する人員配置について伺う。
- ④ 事務の一元化で、消防本部が担うことになれば、消防団と支所、安心安全課との連携についての考えを伺う。
- ⑤ 8月9日20時36分に暴風・波浪警報が発表された。「消防団員は自宅待機し、今後の対応に備えてください。このメールは分団長以上に送信されています。」というメールが入った。その後8月10日15時38分に11号に伴う警報解除により消防団員の自宅待機を解除するとのメールが入った。消防団員に、自宅待機指示を発信する前に災害対策本部を開設されたのか伺う。

3 消防署組織の強化について

- ① 老老介護者の救急搬送については、6月定例会で一般質問をした。過去、老老介護者の救急搬送の実例が数件あったとき聞くが、当時の対応と今後の対応について伺う。
- ② 各出張所が3名体制である。今後、火災対応や老老介護者の搬送についての考え方を伺う。
- ③ 老老介護者に対する市の対応について伺う。